

じぶん銀行

ディスクロージャー誌

2010



# 経営理念

- 1 わたしたち「じぶん銀行」は、お客さまご自身の携帯電話にビルトインされた、お客さま専用の銀行として、いつでもどこでも手のひらで快適にご利用いただけるよう、操作性の際立ったサービス・インターフェースを提供します。
- 2 わたしたち「じぶん銀行」は、携帯電話の特性を最大限活用し、利便性と安全性を両立させた質の高い金融サービスを提供することにより、個人のお客さまにとって満足度No.1の金融機関となることを目指します。
- 3 わたしたち「じぶん銀行」は、常に先進の技術研究と既成概念にとらわれない革新的な商品開発に取り組み、携帯電話をお客さまとの第一の接点とした銀行ならではの付加価値を創造することに日々邁進します。
- 4 わたしたち「じぶん銀行」は、お客さまや社会から信頼される金融機関であり続けるために、適切なリスク管理と徹底したコンプライアンスの実行により、安定的で透明性の高い企業経営を行います。

## 目次

経営理念	1
じぶん銀行からのごあいさつ	2
じぶん銀行の特徴	3
トピックス	5
商品・サービス	6
当行の体制について	13
資料編	16
事業の概況	17
財務諸表	18
営業の概況	29
業務の状況	33
自己資本の充実の状況(定性情報)	39
自己資本の充実の状況(定量情報)	41
財務諸表に係る確認書謄本	45
開示規定項目一覧表	46
会社概要	47
じぶん銀行銀行代理業者営業所一覧	49

本誌は、銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。  
 本ディスクロージャー誌には、将来の予測に関する記述が含まれております。  
 この将来予測に関する記述は経営環境の変化などにより変動する可能性がありますので、ご注意ください。

## じぶん銀行からのごあいさつ



プロフィール(右から)

代表取締役社長  
戸原 健夫

1980年4月三菱銀行入行、  
2007年4月三菱東京UFJ  
銀行マーケティング部長、  
2009年4月(株)じぶん銀  
行顧問、同月、(株)じぶん  
銀行代表取締役社長

代表取締役副社長  
寺崎 賢一

1973年4月三和銀行入行、  
2002年11月KDDI入社、  
2006年6月モバイルネット  
バンク設立調査(株)代表  
取締役副社長、2008年6月  
(株)じぶん銀行代表取締  
役副社長

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

じぶん銀行は、私たちの生活に深く浸透した携帯電話をお客さまとの第一の接点として、2008年7月にサービスを開始しました。利便性と安全性を両立させた質の高いサービスをご提供することで、お客さまお一人おひとりにとって最も身近な銀行となることが、じぶん銀行の経営目標です。

2009年度におきましては、口座開設からお取引まですべて携帯電話だけでお手続きいただける外貨預金のサービスを開始しました。お取引の機会を逃さないタイムリーな金融サービスを提供することにより、お客さまの利便性のさらなる向上に努めました。また、これまで携帯電話からお申込みいただいていたカードローンにつきまして、2010年3月よりパソコンからのお申込みも可能となりました。加えて、モバイルSuicaチャージのサービス開始、au、NTTドコモ、ソフトバンクの3キャリアすべての公式サイト化、募金・寄付の受付先の追加、じぶん銀行決済の提携先の拡充など、携帯電話の機能をフルに活用した、じぶん銀行ならではのサービスのご提供に努めました。

業容につきましては、5月に口座数が100万口座に達しました。一昨年の開業以来、2年足らずでの100万口座到達は、インターネット専門銀行の中では最速となります。これもひとえに日頃よりお取引いただいているお客さまのご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

じぶん銀行は、お客さまのご意見に耳を傾け、お客さまのニーズに即したより利便性の高いサービスの提供に全力を尽くしてまいります。今後とも、変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2010年7月

代表取締役社長 戸原 健夫  
代表取締役副社長 寺崎 賢一

# じぶん銀行の特徴

## 充実したお取引チャネル

いつでも、どこでも「じぶん銀行」。3つの取引チャネルをご用意しております。お客さまのライフシーンに合わせて、取引チャネルをお選びいただけます。

### ◆ ケータイ

お出かけ先やちょっと時間が空いたときなど、いつも持ち歩く携帯電話で銀行取引がご利用いただけます。

#### auじぶんcard

じぶん通帳(アプリ)v2.0では、カードのご利用状況をいつでも確認できます。また、毎月のご利用金額を出金予定としてメモできます。

#### じぶんローン

ローンのお申込みからお借入れ、ご利用状況照会まですべて携帯電話でお手続きいただけます。

#### 定期預金

携帯電話で気軽に定期預金を作成できます。すぐに使わないお金はこまめに定期預金にお預入れいただけます。

#### 外貨預金

口座開設からお預入れ・払戻しまで、携帯電話だけでお手続きいただけます。見やすいチャート表示でリアルタイムにお取引できます。

#### 保険

保険のお見積り・ご契約のお申込みが、携帯電話から簡単にお手続きいただけます。

#### じぶん通帳

毎月の残高のグラフ化や、取引明細の確認ができます。家賃などの支払予定をメモ入力することもできます。携帯電話を通帳とした資産管理が可能です。

#### 振込

じぶん銀行ならではの「ケータイ番号振込」がご利用いただけます。また、当行本支店間・三菱東京UFJ銀行宛のお振込みは、手数料無料です。

#### 電子マネー

電子マネー「Edy(エディ)」、「モバイルSuica」のチャージが携帯電話から簡単操作でご利用いただけます。

#### ショッピング

携帯電話からのショッピングの際は、じぶん銀行決済により簡単操作でお支払いいただけます。

#### ATM・パソコンロック

お取引時以外は、携帯電話からATMやパソコンでの取引にロックをかけることができます。



◆ パソコン

キャンペーン情報や詳しい商品説明は、パソコンの大きな画面でじっくりご覧いただけます。

? 各種ご案内

キャンペーン情報や各種商品のご説明、よくあるご質問などの詳細は、パソコンの画面が見やすく便利です。

パソコンバンキング

パソコンバンキングからも各種お取引がご利用いただけます。

- 円預金の残高照会や入出金明細の照会、定期預金の作成などが簡単にご利用いただけます。また、外貨預金の商品内容、金利・為替レートや取引明細をご確認いただけます。
- ネットショッピングの決済は、じぶん銀行決済で簡単・安全・便利に代金をお支払いいただけます。また、他行へのお振込みもご利用いただけます。
- auじぶんcardの入会のお申込み、じぶんローンのお申込みがご利用いただけます。

パソコンロック

パソコンでのお取引時以外は、ケータイバンキングの操作でロックをかけて不正取引を防止できます。

パソコンのホームページ <http://www.jibunbank.co.jp/pc/>



ログイン後の画面



◆ お客さまセンター

緊急時のご連絡や一部届出事項の変更手続きは、お電話で受付けております。

各種お手続き

キャッシュカードの紛失などの緊急時や、ATM出金限度額・振込限度額の変更などのお取引は、テレホンバンキングにて承っております。

## トピックス いつも身近な「じぶん銀行」を目指して









## 2009年度新商品・サービスラインナップ

2009年	4月	自動車保険の取扱い開始
2009年	5月	外貨普通預金の取扱い開始
2009年	6月	生命保険(第三分野)の取扱い開始
2009年	7月	ケータイアプリ「じぶん通帳(アプリ)v2.0」の提供開始
2009年	8月	外貨定期預金の取扱い開始
2009年	10月	ペット保険の取扱い開始
2010年	1月	3キャリア(au、ドコモ、ソフトバンク)すべての公式サイト化
2010年	2月	モバイルSuicaチャージのサービス開始
2010年	2月	社団法人日本ユネスコ協会連盟の募金取扱い開始

## 2010年5月、100万口座を突破

お客さまからの支持を受け、  
ネット専業銀行最速で100万口座を突破しました

お客さまのご意見・ご要望等を踏まえた  
経営改善への取組み

- |   |   |
|---|---|
|  電子マネーの最低チャージ金額がもっと低いといいな      |  電子マネー「Edy(エディ)」の最低チャージ金額を、5,000円から3,000円に引き下げました。 |
|  じぶんローンの申込みをパソコンでしたい           |  パソコンバンキングで「じぶんローン」のお申込みのお手続きができるようになりました。         |
|  届出事項の変更手続きが、ケータイでできたら便利!      |  ケータイバンキングで住所変更ができるようになりました。                       |
|  auじぶんcardのメンバーサイトへの入力項目が多くて大変 |  セキュリティ水準は維持しながら、入力項目を簡素化しました。                     |

当行では、月1回、VOC (Voice of Customer) 会議を開催し、役員をはじめ関係者にてお客さまから寄せられたご意見・ご要望に対する改善策を検討し、サービスの向上に努めております。

## 「Celent Model Bank 2010」の受賞

米国の金融リサーチ & コンサルティング会社セレントより、「Celent Model Bank 2010」における「Mobile Banking」のモデルバンクとして表彰されました。本賞は、「銀行ビジネスにおけるITの有効活用に関するケーススタディ」をテーマとし、毎年同社が選択し、表彰するものです。当行は、「モバイルを起点とした金融サービスの提供は先進的である」との評価を受け、日本の銀行ではじめての受賞となりました。

## じぶん銀行の商品・サービス

### はじめる

#### 円普通預金

じぶん銀行でお取引いただくにあたって、皆さまに開設いただきます。お届けするキャッシュカードは、三菱東京UFJ銀行、セブン銀行、ゆうちょ銀行のATM(全国約49,000台)でご利用いただけます。



#### 〈提携ATMのご利用手数料〉

三菱東京UFJ銀行のATM／セブン銀行のATM	ゆうちょ銀行のATM
●入金：無料	●入金：毎月1回まで無料、2回目から210円/回(税込)
●出金：合算で毎月3回まで無料、4回目から105円/回(税込)	●出金：毎月1回まで無料、2回目から210円/回(税込)
●残高照会：無料	●残高照会：無料

(2010年6月30日現在)

### ためる

#### 円定期預金

ご利用の携帯電話やパソコンを使って、いつでもどこでもお気軽にお取引いただけます。預入期間は1ヶ月から5年まで。使い勝手の良さとお金利から多くのお客さまにご利用いただいております。



## COLUMN

### じぶんPREMIUM

毎月、じぶん銀行が選ぶ「こだわりの逸品」をプレゼントしています。

これまでのプレゼントの例

●2010年2月『eneloop air fresher』

水の力で空気を洗う『ウイルスウォッシャー機能』を搭載。水道水を電気分解して生成する「電解水」が空気中の花粉、ウイルスなどを抑制し、新鮮でキレイな空気を保ちます。

●2010年3月『DeLonghi エスプレッソメーカー』

業務用と同じポンプ抽出で、風味豊かなエスプレッソを淹れるのに最適な90℃に湯温をコントロール。きめ細かい泡と、芳醇な香りのエスプレッソをお楽しみいただけます。

●2010年5月 YAMAHAのホームシアターシステム『シネマステーション TSS-20』

本物の5.1chサラウンド再生を自宅で手軽に楽しめる、コンパクトサイズのホームシアターシステム。自宅のリビングで、映画館やライブ会場さながらの迫力、スタジアムでスポーツ観戦をしているような臨場感を楽しめます。



毎月替わる、じぶん銀行“こだわりの逸品”『じぶんPREMIUM』を月々のお取引に応じ、抽選でプレゼントしております。

# 商品・サービス

## ■ 外貨預金

米ドル、ユーロ、豪ドルの3通貨をお取扱っています。

携帯電話だけで外貨預金口座の開設、入出金、定期預金のお取引まで、すべてのお取引をご利用いただけます。月曜日の朝から土曜日の朝まで、原則、24時間リアルタイムで為替相場の動きに連動した取引レートを提示いたします。

時間足、日足、週足、月足のチャートをご確認いただけるほか、個別に設定いただけるターゲットメール機能をご利用いただくと、お取引のタイミングを逃しません。



## ■ 普通預金

外貨で1通貨単位以上、円貨で100円相当額以上からご利用いただけます。

## ■ 定期預金

外貨で100通貨単位以上、円貨で1万円相当額以上からご利用いただけます。預入期間は1ヶ月から1年までです。

### 〈為替手数料〉

通貨	単位	片道手数料
米ドル	1米ドル	25銭
ユーロ	1ユーロ	25銭
豪ドル	1豪ドル	50銭

(2010年6月30日現在)

### 〈キャンペーン例〉



## ■ ターゲットメール

お客さまが事前に登録された為替レートに当行が提示する為替レートが合致すると、携帯電話にEメールでお知らせするサービスです。

外貨預金でお取り扱いする3通貨の売り、買いの合計6本の為替レートを登録することができます。





## ■ べんりにつかう

### ■ 振込

原則、24時間365日いつでもどこでもお手続きいただけます(10日先までの振込日指定も可能です)。じぶん銀行の口座同士なら、手数料無料\*<sup>1</sup>で、リアルタイムで振込み取引が完了するため、急な用途でも安心です。

他の金融機関の口座あてにもお振込みいただけます\*<sup>2</sup>。

三菱東京UFJ銀行とのお取引は、お振込み、お受取りともに無料です。

\*<sup>1</sup>テレホンバンキングを除きます。

\*<sup>2</sup>一般の金融機関営業日の15時までの受付分は当日、15時以降および金融機関休業日の受付分は翌営業日のお取扱いとなります。

### ■ ケータイ番号振込

auの携帯電話をご利用で、じぶん銀行に口座をお持ちのお客さま\*同士なら、携帯電話番号で受取人を指定してお振込みいただけるサービスです(手数料無料)。

メール感覚で、受取人さまへのメッセージを添えることもできる、じぶん銀行ならではのサービスです。

\*振込依頼人さま、受取人さまともに「au情報リンクサービス(手数料無料)」のお申込みが必要です。



### 〈振込手数料〉

#### □ ケータイ・パソコンバンキング

当行本支店あての振込み／三菱東京UFJ銀行あての振込み	他行あての振込み (三菱東京UFJ銀行を除く)
無料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振込金額3万円未満：170円(税込)</li> <li>● 振込金額3万円以上：270円(税込)</li> </ul>

#### □ テレホンバンキング

当行本支店あての振込み／三菱東京UFJ銀行あての振込み	他行あての振込み (三菱東京UFJ銀行を除く)
金額にかかわらず一律105円(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振込金額3万円未満：270円(税込)</li> <li>● 振込金額3万円以上：370円(税込)</li> </ul>

(2010年6月30日現在)

## ■ 電子マネーチャージ

円普通預金口座から電子マネー「Edy(エディ)」、「モバイルSuica」にチャージ(入金)ができます。チャージ手数料は無料です。

※「モバイルSuica」チャージの手数料は、2011年3月末日まで無料です。

## ▣ Edyチャージ

EZ Felicaに対応したauケータイをご利用のお客さまが、じぶん通帳(アプリ)の操作でご利用いただけます。簡単操作が特徴で、サービス開始以来、多くのお客さまにご利用いただいております。

### 〈お取引画面〉



※「Edy(エディ)」はビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。

※ Felicaはソニー株式会社の登録商標です。

## ▣ モバイルSuicaチャージ

モバイルSuica対応機種※をご利用の、JR東日本のモバイルSuica会員、EASYモバイルSuica会員に登録済みのお客さまであれば、モバイルSuicaアプリよりご利用いただけます。

※ au、NTTドコモ、ソフトバンクの携帯電話に対応しております。

※「モバイルSuica」は東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

**トピックス** 2010年2月22日より、モバイルSuicaチャージの取扱いを開始しました。

## ■ じぶん銀行決済

auショッピングモールなどのネットショッピングのお支払いや、オークション取引でのお支払い、また証券口座やFX取引口座への資金移動取引を安全・簡単・便利に行えるサービスです。

提携先は順次追加しておりますので、詳しくはじぶん銀行ホームページにてご確認ください。

## ■ 口座振替

月々のau携帯電話料金をはじめとした各種のお支払いを、円普通預金口座から自動で引落としするサービスです。収納企業(各種料金のお支払い先)は順次拡大してまいります。

## ■ auじぶんcard

ご利用金額100円(税込)につき、「じぶんポイント」が1ポイント\* (KDDI利用料金分は2ポイント)貯まるおトクなクレジットカードです。

じぶんポイントは、au携帯電話料金のお支払いや、機種変更等に利用できる「auポイント」に移行できるほか、じぶん銀行口座へキャッシュバックすることも可能です。

auじぶんcardは、全国のauショップでもお申込みいただけます。

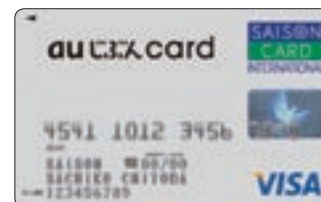
\*1ポイントは1円相当の換算となります。

### 〈カードの年会費、提携先〉

年会費	提携先
一般カード 1,312円(税込) (初年度無料、KDDI利用料金の支払登録を すると2年目以降も無料。 クレディセゾンは永久無料。	三菱UFJニコス、 クレディセゾン、 トヨタファイナンス*、JCB*

(2010年6月30日現在)

\*トヨタファイナンス、JCBは、現在新規申込みを受付していません。



## ■ 募金・寄付

携帯電話から、いつでもどこでも簡単操作で募金や寄付ができます。お客さまのお声を反映しながら、お取扱い先は順次追加してまいります。



〈24時間テレビ募金受付画面〉

# 商品・サービス

## ■ かりる

### ■ じぶんローン

お申込みから審査結果のご連絡、ご契約、お借入れ、残高照会、各種お手続きまで、必要なすべてのお取引を携帯電話からの操作だけで完結できる、画期的なカードローンです。

#### 〈商品・サービスの内容〉

借入可能額	利率	利用手数料(ATM等)
10万円以上 300万円以内 (10万円単位)	年6.5%~17.5%	無料 (ローンカードのATM利用手数料を含め、お借入れ、ご返済に関する手数料はかかりません。)

(2010年6月30日現在)



**トピックス** 2010年3月16日より、パソコンからのお申込みの受付も開始しました。

## ■ そなえる

### ■ 保険商品

携帯電話から、じぶん銀行が提携する保険商品のお見積もり・資料請求をお手続きいただけます。

じぶん銀行に円普通預金口座をお持ちのお客さまなら、氏名・住所などの入力の手間がなく、簡単・便利にご利用いただけます。

#### 〈お取り扱いしている保険商品〉

保険種類	引受保険会社
自動車保険	チューリッヒ・インシュアランス・カンパニー・リミテッド
	ソニー損害保険株式会社
がん保険	アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)
医療保険	アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)
ペット保険	アリアンツ火災海上保険株式会社

(2010年6月30日現在)



## 利便性とセキュリティの両立

### ■ ATMロック

お客さまご自身がキャッシュカードを使うときにだけ、携帯電話でロックを解除してATMを利用できるようにする（普段はATM取引が利用できないようにロックしておく）安心機能です。ATMロックの解除、再ロックはケータイバンキングから簡単に行えます。

### ■ パソコンロック

ATMロックと同様に、パソコンバンキングを使うときにだけ、携帯電話でロックを解除してパソコンバンキングを利用できるようにする安心機能です。「なりすまし」など不正取引のリスクを軽減します。

### ■ au情報リンクサービス

KDDIまたは沖縄セルラー電話のau契約者情報を、お客さまのご同意のもとじぶん銀行で利用させていただくことにより、便利で安全・安心なケータイバンキングをご提供するサービスです。

ご登録の携帯電話からは、暗証番号だけでログインでき、携帯Eメールアドレスの変更が自動反映されるなどお客さまの手間が省けるほか、ご登録以外の携帯電話からはログインできなくなりますので、セキュリティも強化されます。

### ■ メール通知サービス

お客さまのお取引状況や各種キャンペーン情報をEメールでお知らせします。お知らせするEメールには、お申込みいただいたお客さまにだけお送りするものと、口座をお持ちのすべてのお客さまにお送りするもの（セキュリティに関わる重要なお知らせなど）があります。

### ■ 限度額設定

1日あたり、1回あたりの振込限度額と、ATM出金限度額を設定できます。振込限度額とATM出金限度額のご変更は、テレホンバンキングで受付けております。

### ■ 補償制度

万が一、不正な預金の引出しや振込みなどにより、お客さまの口座に損害が生じた場合には、所定の基準に従い一定額を補償いたします。

#### 〈対象となるお取引〉

取引内容	取引経路
ATM出金取引	偽造・変造キャッシュカード・ローンカードによるもの
	盗難キャッシュカード・ローンカードによるもの
	紛失キャッシュカード・ローンカードによるもの
振込取引	ケータイ・パソコン・テレホンバンキングによるもの

(2010年6月30日現在)

## ■ ガバナンス

当行は、付加価値の高い金融サービスの提供により顧客満足度を向上させるとともに、お客さまや社会から信頼される金融機関であり続けることを経営理念として掲げており、これらの実現に向けた業務の適切性を確保すべく、親会社であるKDDI・三菱東京UFJ銀行の知見を活かしたガバナンス態勢の強化に取り組んでおります。

体制といたしましては、取締役会、監査役会、経営会議において各種重要事項に関する審議・決議を行うとともに、審議機関として各種委員会を開催し、テーマ別の重要事項についての討議を実施しております。その他、各種行則の整備、プロセスの明確化、実施状況の内部検証、両親会社のグループ管理等を通じ、健全かつ適切な業務運営体制の確保に努めております。

主な機関の概要、役割は以下のとおりです。(2010年6月30日現在)

### ●取締役会

取締役会は、取締役、監査役で構成され、原則月1回開催、経営に関する重要事項を審議・決議しております。また、諮問機関としてコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスに関する重要事項を討議しております。

### ●監査役会

監査役会は監査役で構成され、原則月1回開催、監査に関する重要事項を審議・決議しております。

### ●経営会議

経営会議は、常勤取締役、執行役員で構成され、原則週1回開催、業務執行に関する重要事項を審議・決議しております。また、諮問機関としてALM委員会を設置し、ALM運営に関する重要事項を討議しております。

## ■ コンプライアンス

コンプライアンスは、当行経営における最重要課題のひとつです。この認識のもと、コンプライアンス委員会で経営陣自らコンプライアンスに関する重要事項を社外委員も加えて定期的に審議しているほか、社内外に通報窓口を用意したコンプライアンス・ヘルプラインを整備し、経営陣のみならず広く役職員全員によるコンプライアンス違反の抑止を図っております。日常業務では、チーフコンプライアンスオフィサーのもと、コンプライアンス統括部を中心に、コンプライアンス・マニュアルの役職員への周知徹底と実行計画であるコンプライアンス・プログラムに沿った活動の展開により、コンプライアンスの徹底を図っております。具体的には、反社会的勢力との取引防止、不正口座利用の防止、適法適切な顧客向け文書・表示の確保に向けた取組みをはじめ、コンプライアンスに関する多くの取組みを実施しております。

## ■ リスク管理

当行は、取締役会のコントロールのもと、適切な経営・業務遂行、株主価値極大化のためにリスク管理を行うことを基本方針としております。この基本方針のもと、さまざまなリスクを特定・認識、評価・計測、制御、監視・報告する一方で、それぞれのリスクを総合的にとらえることで、リスクに見合った収益の安定的な計上、適正な資本構成・資源配分等を実現するためのリスク管理に取り組んでおります。

### (1) リスクの分類

当行では、管理するリスクを、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスク等に分類・定義しております。

リスクの分類	リスクの定義	
信用リスク	信用供与先の財務状況の悪化、契約不履行等により、資産（オフ・バランスを含む）の価値が減少ないし消失し、損失を被るリスク	
市場リスク	金利、為替等のさまざまな市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債（オフ・バランスを含む）の価値が変動し、損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスク	
流動性リスク	市場の状況や当行の財務内容の悪化等により必要な資金が確保できなくなり、資金繰りがつかなくなる場合や、資金の確保に通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク、および市場の混乱等により取引ができなくなり、ポジションの解消等を通常よりも著しく不利な価格で行うことを余儀なくされることにより損失を被るリスク	
オペレーショナルリスク	内部プロセス・人・システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから生じる損失に係るリスク	
	情報資産リスク	情報の喪失・改ざん、不正使用・外部への漏洩、ならびに情報システムの破壊・停止・誤作動・不正使用等により損失を被るリスクおよびこれに類するリスク
	事務リスク	役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスクおよびこれに類するリスク
	評判リスク	顧客や市場等において事実と異なる風説・風評等が流布された結果、ならびに事実に係る当行の対応の不備の結果、評判が悪化することにより損失を被るリスクおよびこれに類するリスク

## (2) リスク管理体制

各リスクの管理については、それぞれリスク所管部が定められております。各リスク所管部は、特定・認識、評価・計測、制御、監視・報告のプロセスのもと、各リスクの内容に応じたリスク管理を行っております。各リスクごとの管理体制は以下のとおりです。

なお、災害や障害が発生した場合においても、業務全般の運営を継続し、また通常機能を回復させ、お客さまや市場への影響を最小限にとどめることができるよう、危機管理に対して必要な態勢を整備しております。

### 信用リスク

当行は、現状、法人融資は行っておりませんので、信用リスクは、個人融資先へのリスク(個人融資先の信用状況の悪化等により、当行が損失を被るリスク)と市場与信リスク(当行の保有する有価証券の発行体や、市場取引の契約の相手方の信用が変化することにより、当行が損失を被るリスク)の2つに大別されます。

個人融資先へのリスクについては、個人への融資にあたり当行及び保証会社双方にて審査を行うことで、資産の健全化を図っております。また、保証会社より保証を取得することで、リスクの軽減を図っております。

市場与信リスクについては、外部格付を基に、発行体や市場取引の契約の相手方のリスク評価を定期的に行い、当行が損失を被ることがないように努めております。

### 市場リスク・流動性リスク

当行は、資金の平均運用期間と平均調達期間のバランスを取ることで市場リスクを適正にコントロールし、経営体力に見合ったALM操作を行うことを、市場リスクの運営方針としております。その運営方針徹底のために、フロント・オフィス、バック・オフィス、ミドル・オフィスの相互牽制が働く体制をとっております。

日々のリスク管理としては、マチュリティーラダー等により資金の流入を管理するとともに、VaR・損益状況・換算ポジション等を算出し、リスク枠、協議基準、運営目処値に照らした適正性を確認しております。月次では、ALM委員会を開催し、取締役会の決定に沿ったALM操作がなされていることの確認や、市場・流動性リスク運営および資産・負債・資本運営に関する重要事項を審議しております。

### オペレーショナルリスク

情報資産リスクについては、手続に則り、重要度に応じた情報管理を行うとともに、定期的な自主点検・内部監査等により、手続遵守状況のチェックを行い、情報セキュリティ管理体制の整備に努めております。

その他のリスクに対しても、それぞれリスク所管部が定められており、必要に応じ、基準・手続を制定・改定しております。基準に抵触する場合には、その損失情報等を、所管部がリスク所管部に報告しております。リスク所管部は、損失情報等を収集、分析し、取締役会等に報告するとともに、その制御に必要な手法等を整備しております。



# 資料編

	掲載ページ
事業の概況	17
財務諸表	
貸借対照表	18
損益計算書	20
株主資本等変動計算書	21
キャッシュ・フロー計算書	22
営業の概況	
損益の状況	29
時価等関係	32
業務の状況	
預金の状況	33
貸出金の状況	35
有価証券の状況	38
自己資本の充実の状況(定性情報)	39
バーゼルⅡ 第3の柱(市場規律)に基づく開示	39
自己資本の充実の状況(定量情報)	41
財務諸表に係る確認書謄本	45
開示規定項目一覧表	46
会社概要	47
じぶん銀行銀行代理業者営業所一覧	49

じぶん銀行の特徴

トピックス

商品・サービス

当行の体制について

事業の概況

財務諸表

営業の概況

業務の状況

自己資本の充実の状況

会社概要

## 事業の成果

当期末の口座数は前期末比451千口座増加し、946千口座となりました。預金残高は前期末比831億円増加し、1,547億円となりました。

当期の業務粗利益は前期比932百万円増加し、1,058百万円となりました。市場環境を背景に資金運用収益が低迷する中、役務取引等収益が増加傾向にあります。

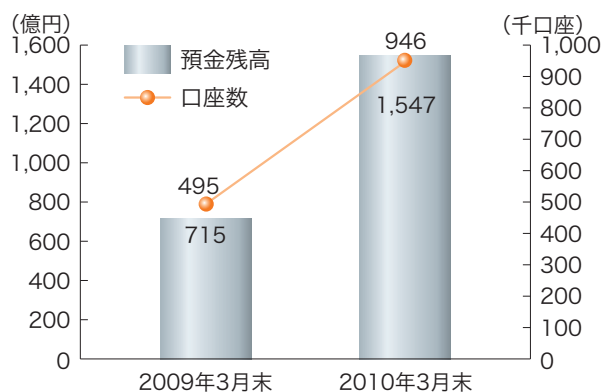
当期の営業経費は8,012百万円となりました。前期は、開業前の営業経費をその他経常費用に計上した点を考慮すると、当期の営業経費は前期比810百万円の減少となります。

当期の経常損失は6,696百万円となり、前期比1,865百万円収支改善しました。更に特別損失103百万円を計上した結果、当期純損失は6,807百万円となりました。

当期末の総資産は1,729億円となり、資産の主な内訳は有価証券1,175億円、コールローン223億円、現金預け金150億円、無形固定資産119億円となっております。一方、当期末の負債は1,561億円となり、負債の主な内訳は預金1,547億円となっております。

当期末の純資産は、昨年12月の増資による資本金、資本準備金それぞれの75億円の増加、当期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少、その他有価証券評価差額金の評価益計上により、167億円となりました。

## 業容の推移



## 主要経営指標等

(単位：百万円)

	2009年3月期	2010年3月期
業務粗利益	126	1,058
経常収益	555	2,759
経常損失	8,561	6,696
当期純損失	8,569	6,807
資本金	20,000	27,500
発行済株式数 (普通株式)	400,000株	700,000株
純資産額	8,572	16,748
総資産額	81,762	172,922
預金残高	71,592	154,702
貸出金残高	546	3,181
有価証券残高	12,307	117,549
1株当たり純資産額	21,431円91銭	23,926円14銭
1株当たり当期純損失	23,586円56銭	13,974円58銭
単体自己資本比率	33.01%	57.98%
配当性向	—	—
従業員数	79人	89人

(注) 1.「単体自己資本比率」は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」(平成18年金融庁告示第19号)に基づき算出しております。なお、当行は国内基準を採用しております。

2.「従業員数」は、執行役員、受入出向者を含み、派遣社員を除いております。

## ◎ 1. 貸借対照表

(単位：百万円)

	2009年3月期末 (2009年3月31日)	2010年3月期末 (2010年3月31日)
<b>(資産の部)</b>		
<b>現金預け金</b>	2,350	15,004
預け金	2,350	15,004
<b>コールローン</b>	52,200	22,345
<b>有価証券</b>	12,307	117,549
国債	12,307	71,165
地方債	—	10,443
社債	—	35,941
<b>貸出金</b>	546	3,181
当座貸越	546	3,181
<b>外国為替</b>	—	521
外国他店預け	—	521
<b>その他資産</b>	998	1,268
前払費用	644	648
未収収益	101	239
その他の資産	252	379
<b>有形固定資産</b>	1,404	1,072
建物	76	16
建設仮勘定	21	5
その他の有形固定資産	1,306	1,050
<b>無形固定資産</b>	11,955	11,980
ソフトウェア	10,887	11,843
その他の無形固定資産	1,067	136
<b>資産の部合計</b>	<b>81,762</b>	<b>172,922</b>

(P19に続く)

じぶん銀行の特徴

トピックス

商品・サービス

当行の体制について

事業の概況

財務諸表

営業の概況

業務の状況

自己資本の充実の状況

会社概要

## 財務諸表

(単位：百万円)

	2009年3月期末 (2009年3月31日)	2010年3月期末 (2010年3月31日)
<b>(負債の部)</b>		
預金	71,592	154,702
普通預金	44,138	64,423
定期預金	27,375	82,661
その他の預金	78	7,617
その他負債	1,371	1,122
未払法人税等	41	63
未払費用	186	420
未払金	1,139	614
その他の負債	3	24
賞与引当金	100	30
退職給付引当金	1	3
ポイント引当金	112	313
繰延税金負債	12	0
<b>負債の部合計</b>	<b>73,190</b>	<b>156,174</b>
<b>(純資産の部)</b>		
資本金	20,000	27,500
資本剰余金	—	7,500
資本準備金	—	7,500
利益剰余金	△ 11,445	△ 18,253
その他利益剰余金	△ 11,445	△ 18,253
繰越利益剰余金	△ 11,445	△ 18,253
株主資本合計	8,554	16,746
<del>その他有価証券評価差額金</del>	18	1
<del>評価・換算差額等合計</del>	18	1
<b>純資産の部合計</b>	<b>8,572</b>	<b>16,748</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>81,762</b>	<b>172,922</b>

## ◎ 2. 損益計算書

(単位：百万円)

	2009年3月期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	2010年3月期 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
<b>経常収益</b>	555	2,759
<b>資金運用収益</b>	134	589
貸出金利息	8	240
有価証券利息配当金	24	243
コールローン利息	99	99
預け金利息	1	5
<b>役務取引等収益</b>	286	1,696
受入為替手数料	80	197
その他の役務収益	205	1,499
<b>その他業務収益</b>	—	216
外国為替売買益	—	86
国債等債券売却益	—	129
<b>その他経常収益</b>	135	257
その他の経常収益	135	257
<b>経常費用</b>	9,117	9,455
<b>資金調達費用</b>	60	487
預金利息	60	487
<b>役務取引等費用</b>	230	955
支払為替手数料	84	155
その他の役務費用	146	800
<b>その他業務費用</b>	2	—
外国為替売買損	2	—
<b>営業経費</b>	7,931	8,012
<b>その他経常費用</b>	891	0
その他の経常費用	891	0
<b>経常損失</b>	8,561	6,696
<b>特別損失</b>	0	103
固定資産処分損	0	103
<b>税引前当期純損失</b>	8,562	6,800
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	7	7
<b>法人税等合計</b>	7	7
<b>当期純損失</b>	8,569	6,807

じぶん銀行の特徴

トピックス

商品・サービス

当行の体制について

事業の概況

財務諸表

営業の概況

業務の状況

自己資本の充実の状況

会社概要

### 3. 株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	2009年3月期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	2010年3月期 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	10,300	20,000
<b>当期変動額</b>		
新株の発行	9,700	7,500
当期変動額合計	9,700	7,500
<b>当期末残高</b>	20,000	27,500
<b>資金剰余金</b>		
<b>資金準備金</b>		
前期末残高	—	—
<b>当期変動額</b>		
新株の発行	—	7,500
当期変動額合計	—	7,500
<b>当期末残高</b>	—	7,500
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	△ 2,876	△ 11,445
<b>当期変動額</b>		
当期純損失 (△)	△ 8,569	△ 6,807
当期変動額合計	△ 8,569	△ 6,807
<b>当期末残高</b>	△ 11,445	△ 18,253
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	7,423	8,554
<b>当期変動額</b>		
新株の発行	9,700	15,000
当期純損失 (△)	△ 8,569	△ 6,807
当期変動額合計	1,130	8,192
<b>当期末残高</b>	8,554	16,746
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	—	18
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	18	△ 17
当期変動額合計	18	△ 17
<b>当期末残高</b>	18	1
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	—	18
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	18	△ 17
当期変動額合計	18	△ 17
<b>当期末残高</b>	18	1
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	7,423	8,572
<b>当期変動額</b>		
新株の発行	9,700	15,000
当期純損失 (△)	△ 8,569	△ 6,807
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	18	△ 17
当期変動額合計	1,148	8,175
<b>当期末残高</b>	8,572	16,748

## ◎ 4. キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2009年3月期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	2010年3月期 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純損失 (△)	△ 8,562	△ 6,800
減価償却費	2,064	2,213
賞与引当金の増減 (△)	57	△ 69
退職給付引当金の増減 (△)	1	2
ポイント引当金の増減 (△)	112	200
資金運用収益	△ 134	△ 589
資金調達費用	60	487
有価証券関係損益 (△)	—	△ 129
為替差損益 (△は益)	—	△ 86
固定資産処分損益 (△)	0	103
貸出金の純増 (△) 減	△ 546	△ 2,635
預金の純増減 (△)	71,592	83,110
コールローンの純増 (△) 減	△ 52,200	29,854
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	—	△ 521
資金運用による収入	87	626
資金調達による支出	△ 25	△ 226
その他	△ 988	△ 556
小計	11,520	104,985
法人税等の支払額	△ 14	△ 7
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,505	104,978
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△ 15,579	△ 199,681
有価証券の売却による収入	—	31,631
有価証券の償還による収入	3,300	62,695
有形固定資産の取得による支出	△ 160	△ 51
有形固定資産の売却による収入	1	—
無形固定資産の取得による支出	△ 4,322	△ 1,914
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 16,761	△ 107,320
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△ 2,154	—
株式の発行による収入	9,700	15,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,546	15,000
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	—	△ 3
<b>V 現金及び現金同等物の増加額</b>	2,290	12,654
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	59	2,350
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	2,350	15,004

じぶん銀行の特徴

トピックス

商品・サービス

当行の体制について

事業の概況

財務諸表

営業の概況

業務の状況

自己資本の充実の状況

会社概要

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、その他有価証券のうち時価のあるものについては決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

有形固定資産は、定額法を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物	8～18年
その他	5～15年

#### (2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年または10年）に基づいて償却しております。

### 3. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

### 4. 引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、簡便法により当事業年度末における自己都合退職による期末要支給額を計上しております。

#### (3) ポイント引当金

ポイント引当金は、「auじぶん card」におけるポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を見積もり、必要と認める額を計上しております。

### 5. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等はその他資産に計上し、5年間で均等償却を行っておりますが、前事業年度に取得した固定資産に係る消費税等は各固定資産の取得価額に含めております。

これは、従来より消費税法上課税事業者であることから税抜方式を採用しておりますが、前事業年度のみ消費税法上は免税事業者となり法人税法個別通達に従い税込方式を採用したことに伴うものであります。

## 追加情報

### (金融商品に関する会計基準)

当事業年度末から「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号平成20年3月10日）、及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号平成20年3月10日）を適用しております。

### (ソフトウェアの利用可能期間の変更)

当行は、前事業年度から当事業年度にかけて勘定系システムの処理基盤を改善するために、各種対策・保守作業を実施した結果、当事業年度において当該システムを相当期間利用することが可能と判断するに至りました。これに伴い、自社利用のソフトウェアの経済的耐用年数の見直しを行った結果、当事業年度より勘定系システムに関連する一部の自社利用のソフトウェアについて、利用可能期間を「5年」から「10年」に変更致しました。この結果、従来に比して経常損失及び税引前当期純損失がそれぞれ1,057百万円減少しております。



## 注記事項

### (貸借対照表関係)

- 為替決済等の取引の担保として、有価証券71,165百万円を差し入れております。  
また、その他の資産のうち保証金は4百万円であります。
- 当座貸越契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、2,504百万円であります。これらは全て任意の時期に無条件で当行が解約可能なものであります。
- 有形固定資産の減価償却累計額 651百万円
- 1株当たりの純資産額 23,926円14銭
- 関係会社に対する金銭債権総額 8,495百万円
- 関係会社に対する金銭債務総額 30,136百万円
- 銀行法第18条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。  
剰余金の配当をする場合には、会社法第445条第4項（資本金の額及び準備金の額）の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額の5分の1を乗じて得た額を資本準備金又は利益準備金として計上することとなります。

### (損益計算書関係)

- 関係会社との取引による収益
 

資金運用取引に係る収益総額	18百万円
役務取引等に係る収益総額	64百万円
その他業務・その他経常取引に係る収益総額	251百万円

 関係会社との取引による費用
 

資金調達取引に係る費用総額	8百万円
役務取引等に係る費用総額	467百万円
その他の経常取引に係る費用総額	1,250百万円
- 「その他の経常収益」には、開業前の委託契約に係るKDDI株式会社からの負担金の受入れ190百万円、及びカードの契約承継に伴い計上した収益60百万円を含んでおります。
- 1株当たり当期純損失金額 13,974円58銭
- 関連当事者との取引に関する注記  
(ア) 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
その他の 関係会社	KDDI株式会社	(被所有) 直接50%	出資会社	増資の引受(注)	3,750	資本金	13,750
					3,750	資本剰余金	3,750
その他の 関係会社	株式会社三菱東京UFJ銀行	(被所有) 直接50%	出資会社	増資の引受(注)	3,750	資本金	13,750
					3,750	資本剰余金	3,750

(注) 当行が行った株主割当増資を、KDDI株式会社及び株式会社三菱東京UFJ銀行が1株につき50,000円で引き受けたものであります。

- (イ) 子会社・子法人等及び関連法人等 該当ありません。  
(ウ) 兄弟会社等 該当ありません。  
(エ) 役員及び個人主要株主等 該当ありません。

### (株主資本等変動計算書関係)

- 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	前事業年度末株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
発行済株式 普通株式	400	300	—	700	注

(注) 普通株式の株式数の増加300千株は、株主割当による新株の発行によるものであります。

# 財務諸表

## (キャッシュ・フロー計算書関係)

キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表上の「預け金」であります。

## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当行は、預金業務、貸出業務、有価証券投資、為替業務などの金融サービス事業を行っております。これらの事業を行うため、市場の状況に応じ長短のバランスを調整するなどして、金利・為替などの変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理（ALM）を行っております。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行は、貸出金や債券等の金融商品を保有しております。これにより、信用リスク、市場リスクに晒されております。

信用リスクとしては、貸出金や市場取引などについて、経済環境の変化や債務者の状況悪化等により、契約条件に従った債務履行がなされない可能性があります。

市場リスクとしては、内外金利、為替レート、債券の市場変動等が挙げられます。例えば金利が上昇した場合、当行の保有する国債をはじめとする債券ポートフォリオの価値が減少します。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスクの管理

当行は、信用リスク管理規則に基づき、与信管理に関する体制を整備し運営しております。

貸出業務については、当行は現状、法人融資を行っておりませんので、個人融資先へのリスクに限定されます。

個人への融資にあたっては、当行のじぶんローン支店、及び保証会社の双方にて審査を行うことで、与信管理を行う体制を構築しております。また、保証会社より保証を取得することで、リスクの軽減を図っております。

市場業務に係る信用リスクに関しては、外部格付を基に、有価証券の発行体や市場取引の相手方のリスク評価を定期的実施し、また有価証券時価の把握を定期的に行い、管理しております。

##### ② 市場リスクの管理

###### (i) リスク管理体制

当行では、フロントオフィス(市場取引実施部署)から独立した、ミドルオフィス(リスク管理部署)及びバックオフィス(事務管理部署)を設置し、相互に牽制が働く体制としております。

また、経営陣によるALM委員会を毎月開催し、市場・流動性リスクの管理・運営、及び資産・負債・資本運営に関する重要事項を審議しております。

###### (ii) 市場リスクマネジメント

当行では、市場リスクの状況や、リスク限度枠・損失限度協議基準に照らした適正性を、それぞれ日次で計測・確認し経営陣あてに報告するとともに、ストレステストなどを用いたリスク分析を行い、上記日次報告に織り込むとともにALM委員会への報告を実施しております。

運営においては、資金の平均運用期間と平均調達期間のバランスを取ることで市場リスクを適正にコントロールし、経営体力に見合ったALM操作を行うことを基本方針とし、適切なリスク運営を行っております。

###### (iii) 市場リスク量の計測モデル

市場リスクは他のリスクに比べ日々の変動が大きいいため、当行ではバリュー・アット・リスク(VaR)を用いた市場リスク量を日次で把握・管理しております。

市場リスク計測モデルにはヒストリカル・シミュレーション法(保有期間21営業日、信頼水準99%、観測期間250営業日)を採用しております。ヒストリカル・シミュレーション法とは、現在のポートフォリオに対して、過去一定期間内で実際に起きた市場変動をあてはめた場合に発生すると推定される損益をシミュレーションしてVaRを算出する手法で、市場変動の特性を直接的に反映させることが可能になること等が特徴です。

## ③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当行では、円貨・外貨のそれぞれについて、資金調達の構成内容や資金繰りギャップの管理、資金流動性維持のための準備資産の管理などを行い、適正な資金流動性の確保に努めております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれる場合があります。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2010年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	15,004	15,004	－
(2) コールローン	22,345	22,345	－
(3) 有価証券 其他有価証券	117,549	117,549	－
(4) 貸出金	3,181	3,181	－
(5) 外国為替	521	521	－
<b>資産計</b>	<b>158,602</b>	<b>158,602</b>	<b>－</b>
(1) 預金	154,702	155,042	340
<b>負債計</b>	<b>154,702</b>	<b>155,042</b>	<b>340</b>

## (注1) 金融商品の時価の算定方法

## 資産

## (1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

## (2) コールローン

コールローンについては、約定期間が短期間であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

## (3) 有価証券

債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

## (4) 貸出金

貸出金については、取引期間が基本契約成立の日から1年と短期間であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

## (5) 外国為替

外国為替は、他の銀行に対する外貨預け金(外国他店預け)であります。これは、満期のない預け金であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

## 負債

## (1) 預金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定してしております。この割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

## 財務諸表

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	15,004	—	—	—	—	—
コールローン	22,345	—	—	—	—	—
有価証券						
国債	52,100	6,750	12,200	—	—	—
地方債	103	2,000	8,356	—	—	—
社債	4,300	15,600	16,000	—	—	—
貸出金	3,181	—	—	—	—	—
外国為替	521	—	—	—	—	—
合計	97,555	24,350	36,556	—	—	—

(注3) 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*)	150,326	1,324	3,051	—	—	—
合計	150,326	1,324	3,051	—	—	—

(\*) 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

## (有価証券関係)

貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」が含まれております。

1. その他有価証券 (2010年3月31日現在)

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの	国債	40,686	40,620	65
	地方債	1,107	1,104	3
	社債	9,655	9,626	29
	小計	51,449	51,351	98
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	国債	30,478	30,488	△ 9
	地方債	9,335	9,357	△ 22
	社債	26,285	26,349	△ 64
	小計	66,099	66,195	△ 95
合計		117,549	117,547	2

(注) 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. 当事業年度中に売却したその他有価証券 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)

(単位:百万円)

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
国債	17,294	115	—
社債	14,467	20	6
合計	31,761	136	6

**(税効果会計関係)**

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産	
税務上の繰越欠損金	7,216百万円
ポイント引当金	127
賞与引当金	12
その他	58
繰延税金資産小計	7,415
評価性引当額	△ 7,415
繰延税金資産合計	—
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△ 0
繰延税金負債合計	△ 0
繰延税金負債の純額	△ 0百万円

じぶん銀行の特徴

トピックス

商品・サービス

当行の体制について

事業の概況

財務諸表

営業の概況

業務の状況

自己資本の充実の状況

会社概要

# 営業の概況

## 損益の状況

### 1. 部門別損益の内訳

(単位：百万円、%)

	2009年3月期			2010年3月期		
	(注2) 国内業務部門	(注2) 国際業務部門	合計	(注2) 国内業務部門	(注2) 国際業務部門	合計
資金運用収支	72	0	73	105	△4	101
資金運用収益			(注3) 0			(注3) 1
資金調達費用	133	0	133	560	30	589
(注3) 0			(注3) 0			(注3) 1
61	61	—	60	454	34	487
役務取引等収支	55	—	55	741	—	741
役務取引等収益	286	—	286	1,696	—	1,696
役務取引等費用	230	—	230	955	—	955
その他業務収支	—	△2	△2	129	86	216
その他業務収益	—	—	—	129	86	216
その他業務費用	—	2	2	—	—	—
業務粗利益	127	△1	126	976	82	1,058
業務粗利益率	0.57%	△1.28%	0.56%	0.96%	2.22%	1.00%

(注) 1. 当行は、銀行業務を2008年6月26日に開始しております。2009年3月期の業務粗利益率につきましては、銀行業務開始後の期間である2008年6月26日から2009年3月31日までの期間に基づいて計算しております。

2. 国内業務部門は円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。

3. 資金運用収益及び資金調達費用の合計の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4. 業務粗利益率 =  $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100 \times \text{年率換算(年間日数} \div \text{期中日数)}$

## ◎ 2. 資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び資金利鞘

(単位：百万円、%)

	2009年3月期			2010年3月期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
<b>国内業務部門</b>						
<b>資金運用勘定</b>				(267)	(1)	
うち貸出金	28,953	133	0.60%	101,583	560	0.55%
うち有価証券	74	8	14.56	1,751	240	13.73
うちコールローン	5,022	24	0.64	63,853	243	0.38
うち買入金銭債権	23,196	99	0.56	30,549	68	0.22
	—	—	—	—	—	—
<b>資金調達勘定</b>	(182)	(0)				
うち預金	28,566	61	0.27	103,133	454	0.44
うちコールマネー	28,383	60	0.27	103,133	454	0.44
うちコールマネー	—	—	—	—	—	—
<b>資金利鞘</b>	—	—	0.32	—	—	0.11
<b>国際業務部門</b>						
<b>資金運用勘定</b>	(182)	(0)				
うち貸出金	183	0	0.61	3,710	30	0.82
うち有価証券	—	—	—	—	—	—
うちコールローン	—	—	—	3,241	30	0.94
うち買入金銭債権	—	—	—	—	—	—
<b>資金調達勘定</b>				(267)	(1)	
うち預金	—	—	—	3,590	34	0.97
うちコールマネー	—	—	—	3,323	32	0.99
うちコールマネー	—	—	—	—	—	—
<b>資金利鞘</b>	—	—	0.61	—	—	△0.14
<b>合計</b>						
<b>資金運用勘定</b>	28,953	133	0.60	105,027	589	0.56
うち貸出金	74	8	14.56	1,751	240	13.73
うち有価証券	5,022	24	0.64	63,853	243	0.38
うちコールローン	23,196	99	0.56	33,790	99	0.29
うち買入金銭債権	—	—	—	—	—	—
<b>資金調達勘定</b>	28,383	60	0.27	106,456	487	0.45
うち預金	28,383	60	0.27	106,456	487	0.45
うちコールマネー	—	—	—	—	—	—
<b>資金利鞘</b>	—	—	0.32	—	—	0.10

(注) 1. 当行は、銀行業務を2008年6月26日に開始しております。2009年3月期の平均残高及び利回りにつきましては、銀行業務開始後の期間である2008年6月26日から2009年3月31日までの期間に基づいて計算しております。

2. ( )内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であり、合計では相殺して記載されております。

# 営業の概況

## 3. 受取利息及び支払利息の分析

(単位：百万円)

	2009年3月期			2010年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
<b>国内業務部門</b>						
資金運用勘定	—	—	—	438	△11	426
資金調達勘定	—	—	—	341	51	393
<b>国際業務部門</b>						
資金運用勘定	—	—	—	29	0	29
資金調達勘定	—	—	—	—	—	—
<b>合計</b>						
資金運用勘定	—	—	—	465	△9	455
資金調達勘定	—	—	—	367	59	426

(注) 2009年3月期は銀行業務開始初年度のため増減比較は行っておりません。

また、2010年3月期の国際業務部門資金調達勘定は、前年度において同部門同勘定が発生していないため、増減比較は行っておりません。

## 4. 営業経費の内訳

(単位：百万円)

	2009年3月期	2010年3月期
給料・手当	844	781
退職給付費用	1	2
福利厚生費	0	0
減価償却費	2,064	2,213
土地建物機械賃借料	431	432
営繕費	6	2
消耗品費	265	125
給水光熱費	31	26
旅費	20	18
通信費	398	452
広告宣伝費	55	194
諸会費・寄付金・交際費	1	1
租税公課	180	364
保守管理費	1,918	941
業務委託費	1,449	921
人材派遣費	482	643
その他	627	888
<b>合計</b>	<b>8,780</b>	<b>8,012</b>

(注) 当行は2008年6月17日に銀行営業免許を取得し、「銀行法」(昭和56年法律第59号)に定める銀行に該当することとなったため、2009年3月期の当該「営業経費」は、損益計算書上の「その他経常費用」に含まれる開業準備期間の営業経費を含めて表示しております。

## 5. 利益率

(単位：%)

	2009年3月期	2010年3月期
総資産経常利益率	—	—
資本経常利益率	—	—
総資産当期純利益率	—	—
資本当期純利益率	—	—

(注) 経常損失、当期純損失となったため、利益率はいずれも記載しておりません。



## 時価等関係

### ● 1. 有価証券関係

#### 1. 売買目的有価証券

該当ありません。

#### 2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

該当ありません。

#### 3. 子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

該当ありません。

#### 4. その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	2009年3月期末				
	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損
債券	12,276	12,307	31	31	0
国債	12,276	12,307	31	31	0
合計	12,276	12,307	31	31	0

(単位：百万円)

	2010年3月期末				
	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損
債券	117,547	117,549	2	98	95
国債	71,108	71,165	56	65	9
地方債	10,462	10,443	△19	3	22
社債	35,975	35,941	△34	29	64
合計	117,547	117,549	2	98	95

(注) 1. 貸借対照表計上額は、当期末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. 「うち益」「うち損」は、それぞれ「評価差額」の内訳であります。

#### 5. 時価評価されていない有価証券の主な内容及び貸借対照表計上額

該当ありません。

### ● 2. 金銭の信託関係

該当ありません。

### ● 3. デリバティブ取引関係

該当ありません。

## 業務の状況

## 預金の状況

## 1. 預金の種類別期末残高及び平均残高

## 期末残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末			2010年3月期末		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
流動性預金	44,138	—	44,138	64,423	3,333	67,756
定期性預金	27,375	—	27,375	82,661	4,156	86,818
固定金利定期預金	27,375	—	27,375	82,661	4,156	86,818
変動金利定期預金	—	—	—	—	—	—
その他の預金	78	—	78	127	—	127
計	71,592	—	71,592	147,212	7,490	154,702
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
合計	71,592	—	71,592	147,212	7,490	154,702

## 平均残高

(単位：百万円)

	2009年3月期			2010年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
流動性預金	20,215	—	20,215	41,285	2,173	43,459
定期性預金	8,146	—	8,146	61,755	1,149	62,904
固定金利定期預金	8,146	—	8,146	61,755	1,149	62,904
変動金利定期預金	—	—	—	—	—	—
その他の預金	22	—	22	92	—	92
計	28,383	—	28,383	103,133	3,323	106,456
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
合計	28,383	—	28,383	103,133	3,323	106,456

(注) 1. 当行は、銀行業務を2008年6月26日に開始しております。2009年3月期の平均残高につきましては、銀行業務開始後の期間である2008年6月26日から2009年3月31日までの期間に基づいて計算しております。

2. 流動性預金とは、普通預金です。

3. 固定金利定期預金とは、預入時に満期日までの利率が確定する定期預金です。

4. 変動金利定期預金とは、預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金です。

## 2. 定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末			2010年3月期末		
	固定金利	変動金利	合計	固定金利	変動金利	合計
3カ月以内	3,300	—	3,300	4,167	—	4,167
3カ月超6カ月以内	1,886	—	1,886	5,543	—	5,543
6カ月超1年以内	20,637	—	20,637	68,384	—	68,384
1年超3年以内	551	—	551	1,515	—	1,515
3年超	999	—	999	3,051	—	3,051
合計	27,375	—	27,375	82,661	—	82,661

## 3. 預貸率・預証率

(単位：%)

	2009年3月期	2010年3月期
<b>預貸率</b>		
<b>期末残高</b>		
国内業務部門	0.76	2.16
国際業務部門	—	—
合計	0.76	2.05
<b>期中平均</b>		
国内業務部門	0.26	1.69
国際業務部門	—	—
合計	0.26	1.64
<b>預証率</b>		
<b>期末残高</b>		
国内業務部門	17.19	79.85
国際業務部門	—	—
合計	17.19	75.98
<b>期中平均</b>		
国内業務部門	17.69	61.91
国際業務部門	—	—
合計	17.69	59.98

(注) 当行は、銀行業務を2008年6月26日に開始しております。

2009年3月期の預貸率及び預証率の期中平均につきましては、銀行業務開始後の期間である2008年6月26日から2009年3月31日までの期間に基づいて計算しております。

# 業務の状況

## 貸出金の状況

### 1. 貸出金の科目別期末残高及び平均残高

期末残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末			2010年3月期末		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
割引手形	-	-	-	-	-	-
手形貸付	-	-	-	-	-	-
証書貸付	-	-	-	-	-	-
当座貸越	546	-	546	3,181	-	3,181
合計	546	-	546	3,181	-	3,181

平均残高

(単位：百万円)

	2009年3月期			2010年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
割引手形	-	-	-	-	-	-
手形貸付	-	-	-	-	-	-
証書貸付	-	-	-	-	-	-
当座貸越	74	-	74	1,751	-	1,751
合計	74	-	74	1,751	-	1,751

(注) 当行は、銀行業務を2008年6月26日に開始しております。2009年3月期の平均残高につきましては、銀行業務開始後の期間である2008年6月26日から2009年3月31日までの期間に基づいて計算しております。

### 2. 貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末						
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	合計
固定金利	-	-	-	-	-	-	-
変動金利	-	-	-	-	-	546	546
合計	-	-	-	-	-	546	546

(単位：百万円)

	2010年3月期末						
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	合計
固定金利	-	-	-	-	-	-	-
変動金利	-	-	-	-	-	3,181	3,181
合計	-	-	-	-	-	3,181	3,181

### 3. 貸出金の業種別残高

(単位：百万円、%)

	2009年3月期末		2010年3月期末	
	金額	構成比	金額	構成比
個人	546	100.00%	3,181	100.00%
法人	-	-%	-	-%
合計	546	100.00%	3,181	100.00%

#### 4. 貸出金の使途別残高

(単位：百万円、%)

	2009年3月期末		2010年3月期末	
	金額	構成比	金額	構成比
設備資金	-	-%	-	-%
運転資金	546	100.00%	3,181	100.00%
合計	546	100.00%	3,181	100.00%

#### 5. 貸出金等の担保別内訳

(単位：百万円)

	2009年3月期末	2010年3月期末
自行預金	-	-
有価証券	-	-
債権	-	-
商品	-	-
不動産	-	-
財団	-	-
その他	-	-
計	-	-
保証	546	3,181
信用	-	-
合計	546	3,181

#### 6. 中小企業等に対する貸出金

(単位：百万円、%)

	2009年3月期末	2010年3月期末
総貸出金残高 (A)	546	3,181
中小企業等貸出金残高 (B)	546	3,181
比率 (B) / (A)	100.00%	100.00%

(注) 中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、サービス業は5,000万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業は100人、小売業は50人、サービス業は100人)以下の会社及び個人です。

#### 7. 消費者ローン残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末	2010年3月期末
消費者ローン残高	546	3,181

# 業務の状況

## 8. 特定海外債権残高

該当ありません。

## 9. 貸倒引当金の期末残高及び期中増減額

該当ありません。

## 10. 貸出金償却

該当ありません。

## 11. リスク管理債権の状況

### ① リスク管理債権

(単位：百万円、%)

	2009年3月期末	2010年3月期末
破綻先債権額	—	—
延滞債権額	—	—
3カ月以上延滞債権額	—	—
貸出条件緩和債権額	—	—
合計	—	—
貸出金残高	546	3,181
貸出金に占める比率	—%	—%

### ② リスク管理債権に対する引当率

(単位：百万円、%)

	2009年3月期末	2010年3月期末
貸倒引当金 (A)	—	—
リスク管理債権 (B)	—	—
引当率 (A) / (B)	—%	—%

(注) 貸倒引当金には、リスク管理債権以外の債権に対応する引当金が含まれているほか、担保・保証等による保全については考慮されていません。

## 12. 金融再生法に基づく資産査定額

(単位：百万円、%)

	2009年3月期末	2010年3月期末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	—	—
危険債権	—	—
要管理債権	—	—
計	—	—
正常債権	548	3,192
合計	548	3,192
開示債権比率	0.00%	0.00%

(注) 上記は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」に基づくものであります。

## 有価証券の状況

### 1. 商品有価証券の種類別期末残高及び平均残高

該当ありません。

### 2. 有価証券の種類別期末残高及び平均残高

期末残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末			2010年3月期末		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
国債	12,307	－	12,307	71,165	－	71,165
地方債	－	－	－	10,443	－	10,443
社債	－	－	－	35,941	－	35,941
合計	12,307	－	12,307	117,549	－	117,549

平均残高

(単位：百万円)

	2009年3月期			2010年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
国債	5,022	－	5,022	47,384	－	47,384
地方債	－	－	－	1,596	－	1,596
社債	－	－	－	14,872	－	14,872
合計	5,022	－	5,022	63,853	－	63,853

(注) 当行は、銀行業務を2008年6月26日に開始しております。2009年3月期の平均残高につきましては、銀行業務開始後の期間である2008年6月26日から2009年3月31日までの期間に基づいて計算しております。

### 3. 有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2009年3月期末							合計
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	
国債	3,206	9,101	－	－	－	－	－	12,307
地方債	－	－	－	－	－	－	－	－
社債	－	－	－	－	－	－	－	－
合計	3,206	9,101	－	－	－	－	－	12,307

(単位：百万円)

	2010年3月期末							合計
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	
国債	52,091	6,863	12,209	－	－	－	－	71,165
地方債	103	2,002	8,337	－	－	－	－	10,443
社債	4,315	15,609	16,015	－	－	－	－	35,941
合計	56,511	24,475	36,562	－	－	－	－	117,549

# 自己資本の充実の状況(定性情報)

## バーゼルⅡ 第3の柱(市場規律)に基づく開示

銀行法施行規則第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項(平成19年3月23日 金融庁告示第15号、バーゼルⅡ第3の柱)を開示するものです。

なお、本開示における「自己資本比率告示」とは、銀行法第14条の2の規定に基づき銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年3月27日 金融庁告示第19号、バーゼルⅡ第1の柱)を指します。

### ① 自己資本調達手段の概要

普通株式の発行により調達しております。株主はKDDI株式会社(持株比率50%)、株式会社三菱東京UFJ銀行(持株比率50%)です。

### ② 銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要

自己資本比率告示に基づいて算出した2010年3月末時点の自己資本比率は、57.98%と、国内基準である4%を上回っております。なお、自己資本比率の算出に際しては、信用リスクは標準的手法、オペレーショナル・リスクについては基礎的手法を採用しております。

### ③ 信用リスクに関する次に掲げる事項

イ. リスク管理の方針及び手続の概要

標準的手法を採用しております。

ロ. 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

(1) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等(適格格付機関、経済協力開発機構及び輸出信用機関をいう。以下同じ。)の名称(使用する適格格付機関等を変更した場合には、その理由を含む。)

株式会社格付投資情報センター、株式会社日本格付研究所、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク、スタンダード・アンド・プアーズ・レーティングズ・サービス、フィッチレーティングスリミテッドを採用しております。

(2) エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

エクスポージャーごとに適格格付機関の使い分けは実施しておりません。

### ④ 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

貸出エクスポージャーは「じぶんローン」による個人向け貸出のみであり、小口分散がなされております。また、保証会社による保証を取得し、リスク削減を行っております。



## ◎ 5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

該当ありません。

## ◎ 6. 証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

## ◎ 7. マーケット・リスクに関する事項

自己資本比率告示第39条に基づき、自己資本比率の算式にマーケット・リスク相当額を算入していないため、該当ありません。

## ◎ 8. オペレーショナル・リスクに関する事項

基礎的手法を採用しております。

## ◎ 9. 銀行勘定における銀行法施行令(昭和57年政令第40号)第4条第4項第3号に規定する出資その他これに類するエクスポージャー(以下「出資等」という。)又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

該当ありません。

## ◎ 10. 銀行勘定における金利リスクに関する次に掲げる事項

イ. リスク管理の方針及び手続の概要

予想最大損失額(Value at Risk)や一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスク(ストレステスト)等、定期的に金利リスク量を計測し、経営陣への報告を行うとともに、月次で開催されるALM委員会で、ALM運用方針を討議いたしております。

ロ. 銀行が内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要

保有期間1カ月(21営業日)、信頼水準99%、観測期間1年(250営業日)のVaR(ヒストリカル・シミュレーション法)を採用しております。2010年3月末時点VaRは、251.1百万円です。

# 自己資本の充実の状況(定量情報)

自己資本比率は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」(平成18年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。)に基づき算出しております。なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては基礎的手法を採用するとともに、マーケット・リスク相当額を不算入としております。

## ◎ 1. 自己資本の構成に関する事項

(単位：百万円)

	2009年3月期末	2010年3月期末
<b>基本的項目 (Tier1)</b>		
<b>資本金</b>	20,000	27,500
うち非累積的永久優先株	—	—
<b>新株式申込証拠金</b>	—	—
<b>資本準備金</b>	—	7,500
<b>その他資本剰余金</b>	—	—
<b>利益準備金</b>	—	—
<b>その他利益剰余金</b>	△ 11,445	△ 18,253
<b>その他</b>	—	—
<b>自己株式 (△)</b>	—	—
<b>自己株式申込証拠金</b>	—	—
<b>社外流出予定額 (△)</b>	—	—
<b>その他有価証券の評価差損 (△)</b>	—	—
<b>新株予約権</b>	—	—
<b>営業権相当額 (△)</b>	—	—
<b>のれん相当額 (△)</b>	—	—
<b>企業結合により計上される無形固定資産相当額 (△)</b>	—	—
<b>証券化取引に伴い増加した自己資本相当額 (△)</b>	—	—
<b>(基本的項目) 計 (A)</b>	8,554	16,746
うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券	—	—
<b>補完的項目 (Tier2)</b>		
<b>土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額</b>	—	—
<b>一般貸倒引当金</b>	—	—
<b>負債性資本調達手段等</b>	—	—
うち永久劣後債務	—	—
うち期限付劣後債務及び期限付優先株	—	—
<b>補完的項目不算入額 (△)</b>	—	—
<b>(補完的項目) 計 (B)</b>	—	—
<b>自己資本総額 (A) + (B) (C)</b>	8,554	16,746
<b>控除項目 (D)</b>	—	—
<b>自己資本額 (C) - (D) (E)</b>	8,554	16,746
<b>リスク・アセット等</b>	—	—
<b>資産 (オン・バランス) 項目</b>	25,035	26,675
<b>オフ・バランス取引等項目</b>	—	—
<b>信用リスク・アセットの額</b>	25,035	26,675
<b>オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額</b>	874	2,204
<b>(参考) オペレーショナル・リスク相当額</b>	69	176
<b>リスク・アセット等合計 (F)</b>	25,909	28,880
<b>単体自己資本比率 (E) / (F)</b>	33.01%	57.98%
<b>参考：Tier1比率 (A) / (F)</b>	33.01%	57.98%

## ◎ 2. 自己資本の充実度に関する事項

### (1) 信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

	2009年3月期末		2010年3月期末	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
資産（オン・バランス）項目				
（i）ソブリン向け	-	-	402	16
（ii）金融機関向け	10,655	426	10,819	432
（iii）法人等向け	375	15	1,740	69
（iv）中小企業等・個人向け	-	-	-	-
（v）抵当権付住宅ローン向け	-	-	-	-
（vi）3ヶ月以上延滞等	-	-	-	-
（vii）その他	14,004	560	13,714	548
証券化エクスポージャー	-	-	-	-
資産（オン・バランス）計	25,035	1,001	26,675	1,067
オフ・バランス取引等	-	-	-	-
合計	25,035	1,001	26,675	1,067

### (2) 単体総所要自己資本額

(単位：百万円)

	所要自己資本額	
	2009年3月期末	2010年3月期末
信用リスク（標準的手法）	1,001	1,067
オペレーショナル・リスク（基礎的手法）	34	88
単体総所要自己資本額	1,036	1,155

(注) 1. 所要自己資本の額=リスク・アセット×4%

2. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、我が国の政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、国際決済銀行等のことです。

3. 「3ヶ月以上延滞等」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャーのことです。

4. オペレーショナル・リスクは、当行は基礎的手法を採用しています。

5. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の算式の分母の額×4%

# 自己資本の充実の状況(定量情報)

## 3.信用リスクに関する事項

- (1)信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及びエクスポージャーの主な種類別の内訳  
 (2)信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高のうち、地域別、取引相手の別、残存期間別の区分ごとの額及びそれらのエクスポージャーの主な種類別の内訳  
 (3)3ヶ月以上延滞エクスポージャーの期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高

(単位:百万円)

	2009年3月期末					2010年3月期末				
	信用リスク・エクスポージャー期末残高			3ヶ月以上延滞 エクスポージャー	信用リスク・エクスポージャー期末残高			3ヶ月以上延滞 エクスポージャー		
	うち 貸出金	うち 有価証券	うち デリバティブ		うち 貸出金	うち 有価証券	うち デリバティブ			
国内	81,762	546	12,307	-	-	172,922	3,181	117,549	-	-
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域別合計	81,762	546	12,307	-	-	172,922	3,181	117,549	-	-
ソブリン向け	14,032	-	12,307	-	-	101,674	-	87,120	-	-
金融機関向け	53,024	-	-	-	-	54,095	-	30,428	-	-
法人向け	152	-	-	-	-	245	-	-	-	-
中小企業等・個人向け	548	546	-	-	-	3,192	3,181	-	-	-
その他	14,004	-	-	-	-	13,714	-	-	-	-
取引相手の別合計	81,762	546	12,307	-	-	172,922	-	117,549	-	-
1年以下	55,643	-	3,206	-	-	79,353	-	56,511	-	-
1年超	9,101	-	9,101	-	-	61,038	-	61,038	-	-
期間の定めのないもの等	17,018	546	-	-	-	32,530	3,181	-	-	-
残存期間別合計	81,762	546	12,307	-	-	172,922	3,181	117,549	-	-

- (4)一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の当事業年度末残高及び期中の増減額  
 該当ありません。

- (5)業種別又は取引相手の別の貸出金償却の額  
 該当ありません。

- (6)標準的手法が採用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を  
 勘案した後の残高、並びに資本控除した額

(単位:百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分	エクスポージャーの額			
	2009年3月期末		2010年3月期末	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	-	14,032	-	97,651
10%	-	-	-	4,022
20%	52,967	-	54,102	-
35%	-	-	-	-
50%	641	-	3,383	-
75%	-	-	-	-
100%	47	14,073	42	13,718
150%	-	-	-	-
350%	-	-	-	-
自己資本控除	-	-	-	-
合計	53,656	28,106	57,529	115,393

- (注) 1.格付にかかわらず、リスク・ウェイトが定められているエクスポージャーについては、「格付無し」に計上しております。  
 2.格付は適格格付機関が付与しているものに限り、ます。  
 3.エクスポージャーは信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しております。

## ◎ 4.信用リスク削減手法に関する事項

(1)信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(2)保証又はクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

	2009年3月期末	2010年3月期末
	信用リスク削減手法が 適用されたエクスポージャー	信用リスク削減手法が 適用されたエクスポージャー
現金及び自行預金	—	—
適格債権	—	—
適格株式	—	—
適格金融資産担保合計	—	—
適格保証	548	3,192
適格クレジット・デリバティブ	—	—
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	548	3,192

## ◎ 5.派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当ありません。

## ◎ 6.証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

## ◎ 7.マーケット・リスクに関する事項(内部モデル方式を採用する銀行に限る。)

当行は、告示第39条に基づき、自己資本比率の算式にマーケット・リスク相当額を算入していないため、該当ありません。

## ◎ 8.銀行勘定における出資又は株式等エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

## ◎ 9.信用リスク・アセットにみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

当行は、信用リスクの算出方法として標準的手法を採用しているため、該当ありません。

## ◎ 10.銀行勘定における金利リスクに関して銀行が内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

(単位：百万円)

	2009年3月期	2010年3月期
内部管理上使用した金利ショックに対する経済的価値の増減額	58	251

(算出の前提)

VaR:ヒストリカル・シミュレーション法

保有期間1カ月(21営業日)、信頼水準99%、観測期間1年(250営業日)

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性について経営者責任の明確化（要請）」（平成17年10月7日付金監第2835号）に基づく、当行の財務諸表の適応性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりであります。

## 確認書

2010年6月17日

株式会社じぶん銀行

代表取締役社長 戸原 健夫 印

1. 私は、当行の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第2期事業年度に係る財務諸表に記載した内容が、「銀行法施行規則」等に準拠して、全ての重要な点において適正に表示されていることを確認しました。
2. 当該確認を行うにあたり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しました。
  - （1）業務分掌と所管部署が明確化され、各所管部署が適切に業務を遂行する体制が整備されていること。
  - （2）業務の実施部署から独立した内部監査部門が所管部署における内部管理体制の適切性・有効性を検証し、重要な事項については取締役会等に報告する体制が整備されていること。
  - （3）重要な経営情報が取締役会等へ適切に付議・報告されていること。

**決算公告（電子公告）**

銀行法第20条に基づく決算公告は、電子公告により下記の当行ホームページに掲載しております。

1 <http://www.jibunbank.co.jp/pc/>

2 「会社・採用情報」をクリック

3 「財務情報・ディスクロージャー」をクリック

## 銀行法施行規則に定められた開示項目

掲載ページ

<b>概況及び組織に関する事項</b>	
大株主一覧	47
<b>主要な業務に関する事項</b>	
事業の概況	17
経常収益	17
経常利益又は経常損失	17
当期純利益又は当期純損失	17
資本金・発行済株式総数	17
純資産額	17
総資産額	17
預金残高	17
貸出金残高	17
有価証券残高	17
単体自己資本比率	17
配当性向	17
従業員数	17
業務粗利益・業務粗利益率	29
資金運用収支・役員取引等収支・その他業務収支	29
資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び資金利鞘	30
受取利息・支払利息の増減	31
総資産経常利益率及び資本経常利益率	31
総資産当期純利益率及び資本当期純利益率	31
預金平均残高	33
定期預金の残存期間別残高	34
貸出金平均残高	35
貸出金残存期間別残高	35
貸出金業種別残高	35
貸出金使途別残高	36
貸出金等担保別内訳	36
中小企業等向貸出金残高等	36
特定海外債権残高	37
預貸率	34
商品有価証券平均残高	38
有価証券残存期間別残高	38
有価証券平均残高	38
預証率	34
<b>財産の状況に関する事項</b>	
貸借対照表	18
損益計算書	20
株主資本等変動計算書	21
自己資本の充実の状況（定性情報）	39
自己資本の充実の状況（定量情報）	41
有価証券時価情報	32
金銭の信託時価情報	32
デリバティブ取引時価情報	32
貸倒引当金内訳	37
貸出金償却額	37

## 金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則に定められた開示項目

破産更生債権及びこれらに準ずる債権・危険債権・要管理債権・正常債権	37
-----------------------------------	----

じぶん銀行の特徴

トピックス

商品・サービス

当行の体制について

事業の概況

財務諸表

営業の概況

業務の状況

自己資本の充実の状況

会社概要

# 会社概要

## ■ 会社概要 (2010年6月30日現在)

名 称	株式会社じぶん銀行 (英文表記: Jibun Bank Corporation)	
所在地	東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー7階	
代表者	代表取締役社長 戸原 健夫 代表取締役副社長 寺崎 賢一	
銀行免許取得日	2008年6月17日	
開業日	2008年6月26日	
資本金	275億円	
発行済株式数	700,000株	
株 主	KDDI株式会社	所有株式数350,000株、持株比率50%
	株式会社三菱東京UFJ銀行	所有株式数350,000株、持株比率50%
従業員数	91人	
営業所	本店: 東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー7階 あか支店・だいたい支店・きいろ支店・みどり支店・あお支店・あいいろ支店・むらさき支店: 東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー7階 じぶんローン支店: 東京都新宿区西新宿1丁目20番1号 オリックス不動産西新宿ビル4階	

## ■ 銀行代理業者 (2010年7月1日現在)

名 称	KDDI株式会社 銀行代理業を営む営業所: 本社、沖縄テレマーケティングセンター、六本木事業所、コンシューマ中部支社
名 称	株式会社三菱東京UFJ銀行 銀行代理業を営む営業所: 三菱東京UFJ銀行国内本支店・出張所(671ヵ店)、東京コールセンター、大阪コールセンター リテール拠点部(東京、名古屋、大阪)、リテール業務部、リテール企画部ネット戦略室、東日本職域営業部、 中部職域営業部、西日本職域営業部

## ■ 役員 (2010年6月30日現在)

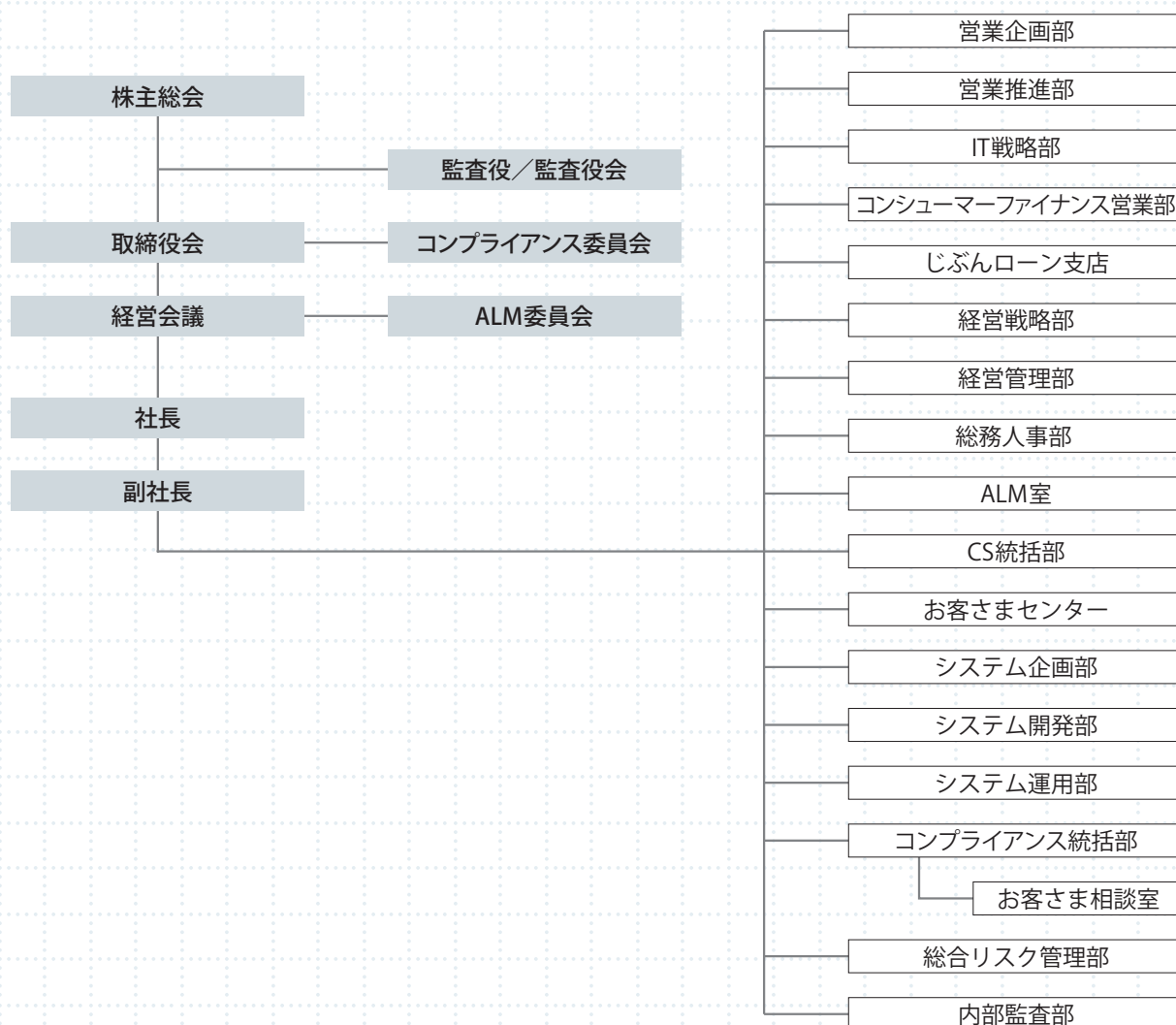
代表取締役社長	とほら たけお 戸原 健夫
代表取締役副社長	てらさき けんいち 寺崎 賢一
取締役	かつき ともひこ 勝木 朋彦 / 営業担当
取締役(非常勤)	いしづ こういち 石津 浩一 / KDDI株式会社 理事 コンシューマ事業本部コンシューマ営業企画本部長
取締役(非常勤)	やない たかひろ 柳井 隆博 / 株式会社三菱東京UFJ銀行 執行役員 リテール企画部長
常勤監査役	もり としあき 森 俊昭
監査役(非常勤)	はせがわ じゅん 長谷川 潤 / 株式会社三菱東京UFJ銀行 リテール企画部部長(特命担当)
監査役(非常勤)	ますだ えいじ 増田 英次 / 増田パートナーズ法律事務所弁護士
執行役員	さかたけ よしたか 坂出 宜隆 / コンシューマーファイナンス担当
執行役員	すぎうら じゅんいち 杉浦 純一 / 経営企画担当
執行役員	かわまた くにひろ 川俣 邦治 / カスタマーサービス担当
執行役員	いけだて まさひろ 池館 雅博 / システム担当
執行役員	ふなでら さとる 船寺 悟 / チーフコンプライアンスオフィサー兼チーフリスクオフィサー兼総合リスク管理部長



## 沿革 (2010年6月30日現在)

2006年	5月	KDDI株式会社と株式会社三菱東京UFJ銀行の共同出資により、設立準備会社であるモバイルネットバンク設立調査株式会社を設立
2008年	6月	銀行免許の予備審査が終了、株式会社じぶん銀行に商号を変更
	6月	銀行業の営業免許を取得
	7月	お客さま向けサービスを開始
	11月	クレジットカード「auじぶんcard」の発行を開始
	12月	新型カードローン「じぶんローン」のサービスを開始
2009年	4月	自動車保険の取扱いを開始
	5月	外貨普通預金の取扱いを開始
	6月	生命保険(第三分野)の取扱いを開始
	8月	外貨定期預金の取扱いを開始
	10月	ペット保険の取扱いを開始
2010年	1月	3キャリア (au、NTTドコモ、ソフトバンク) すべての公式サイト化
	2月	モバイルSuicaチャージのサービスを開始

## 組織図 (2010年6月30日現在)



# じぶん銀行銀行代理業者営業所一覽

■ KDDI

本社
沖縄テレマーケティングセンター
六本木事業所
コンシューマ中部支社

■ 三菱東京UFJ銀行

	<b>北海道</b>	秋葉原支店	千駄木支店	恵比寿支店	練馬光が丘支店
		札幌支店	本郷支店	笹塚支店	練馬平和台支店
		札幌中央支店	茗荷谷出張所	渋谷支店	保谷支店
	<b>宮城県</b>	神田支店	台東区	渋谷中央支店	足立区
		仙台支店	浅草支店	渋谷明治通支店	千住支店
		仙台中央支店	浅草橋支店	原宿支店	千住中央支店
	<b>茨城県</b>	麹町中央支店	上野支店	東恵比寿支店	竹ノ塚支店
		土浦支店	上野中央支店	代々木上原支店	葛飾区
		水戸支店	雷門支店	中野区	葛飾支店
	<b>埼玉県</b>	東京営業部	墨田区	中野支店	金町支店
		上尾支店	押上支店	中野駅前支店	亀有支店
		入間支店	押上駅前支店	中野駅南口支店	亀有駅前支店
		浦和支店	錦糸町支店	野方支店	新小岩支店
		大宮支店	錦糸町駅前支店	東中野支店	江戸川区
		大宮駅前支店	本所支店	杉並区	葛西支店
		春日部支店	本所中央支店	阿佐ヶ谷支店	小岩支店
		春日部駅前支店	向島支店	阿佐ヶ谷駅前支店	小松川支店
		川越支店	江東区	永福町支店	西葛西支店
		越谷支店	亀戸支店	永福町駅前支店	船堀支店
		越谷駅前支店	亀戸北口支店	荻窪支店	船堀駅前支店
		坂戸支店	木場深川支店	荻窪駅前支店	瑞江支店
		狭山出張所	深川支店	上北沢支店	東京23区外
		志木駅前支店	門前仲町支店	久我山支店	昭島支店
		草加支店	品川区	久我山駅前支店	吉祥寺支店
		草加駅前支店	荏原支店	高円寺支店	吉祥寺駅前支店
		草加新田支店	大井支店	西荻窪支店	国立支店
		所沢支店	大井町支店	西荻窪駅前支店	国立駅前支店
		所沢中央支店	五反田支店	浜田山出張所	久米川支店
		新座志木支店	五反田駅前支店	豊島区	小金井支店
		西川口支店	小山支店	池袋支店	国分寺支店
		蓮田支店	目黒支店	池袋西口支店	国分寺駅前支店
		東松山支店	目黒駅前支店	池袋東口支店	聖蹟桜ヶ丘支店
		南浦和支店	目黒区	大塚支店	仙川支店
		和光支店	学芸大学駅前支店	駒込支店	鷹の台出張所
		和光駅前支店	自由が丘支店	巣鴨支店	立川支店
		蕨支店	自由が丘駅前支店	西池袋支店	立川中央支店
	<b>千葉県</b>	表参道支店	都立大学駅北支店	東長崎支店	田無支店
		市川支店	都立大学駅前支店	目白支店	田無駅前支店
		市川駅前支店	中目黒支店	目白駅前支店	多摩支店
		市川八幡支店	中目黒駅前支店	北区	多摩センター支店
		浦安支店	祐天寺支店	赤羽支店	調布支店
		浦安駅前支店	大田区	赤羽駅前支店	調布南支店
		柏支店	池上支店	王子支店	鶴川支店
		柏中央支店	大森支店	王子駅前支店	成瀬支店
		鎌ヶ谷特別出張所	浜松町支店	滝野川支店	八王子支店
		木更津支店	広尾支店	荒川区	八王子中央支店
		行徳支店	三田支店	日暮里支店	日野市役所支店
		五香支店	六本木支店	三河島支店	日野豊田支店
		志津支店	新宿区	長原支店	府中支店
		新稲毛出張所	飯田橋支店	羽田支店	府中駅前支店
		新松戸支店	大久保支店	世田谷区	福生支店
		千葉支店	神楽坂支店	尾山台支店	町田支店
		千葉中央支店	新宿支店	烏山支店	町田駅前支店
		津田沼支店	新宿新都心支店	経堂支店	三鷹支店
		津田沼東支店	新宿中央支店	駒沢大学駅前支店	三鷹中央支店
		成田空港支店	新宿通支店	三軒茶屋支店	武蔵境支店
		成田空港第2ビル出張所	新宿西支店	下北沢支店	武蔵境駅前支店
		船橋支店	高田馬場支店	成城支店	高島平支店
		船橋駅前支店	高田馬場駅前支店	成城学園前支店	帝京大病院出張所
		松戸支店	東京女子医大出張所	世田谷支店	練馬区
		松戸西口支店	東京都庁第二本庁舎出張所	世田谷上町支店	江古田支店
		八千代支店	西新宿支店	玉川支店	大泉支店
		八幡支店	四谷支店	東京コールセンター	大泉学園支店
	<b>東京都</b>	四谷三丁目支店	文京区	東松原特別出張所	上石神井支店
	<b>千代田区</b>	丸の内支店	文京区	二子玉川支店	石神井公園支店
		本店	江戸川橋支店	用賀出張所	練馬支店
		丸の内支店	春日町支店	渋谷区	練馬駅前支店

上大岡支店	愛知県	尾張新川支店	伏見支店	都島支店	神戸支店
上永谷支店	名古屋市内	春日井支店	洛西出張所	森小路支店	神戸中央支店
川崎支店	名古屋営業部	勝川支店	大阪府	リテール拠点部(大阪)	逆瀬川出張所
川崎駅前支店	名古屋中央支店	蟹江支店	大阪市内	大阪市外	さんだ支店
港南台支店	愛知県庁出張所	蒲郡支店	大阪営業部	天美出張所	三宮支店
港北ニュータウン支店	熱田支店	刈谷支店	大阪中央支店	池田支店	夙川支店
相模大野支店	新瑞橋支店	木曾川支店	あびこ支店	和泉支店	住吉支店
相模大野駅前支店	有松出張所	北岡崎支店	阿倍野橋支店	泉ケ丘支店	宝塚中山支店
相模原支店	石川橋支店	国府支店	阿倍野橋西支店	泉佐野支店	塚口支店
相模原中央支店	猪子石出張所	高蔵寺支店	淡路支店	茨木支店	長田支店
鷺沼支店	今池支店	江南支店	生野支店	茨木駅前支店	西明石特別出張所
湘南台支店	植田出張所	小牧支店	今里支店	茨木西支店	西宮支店
新百合ヶ丘支店	内田橋支店	甚目寺出張所	今里北支店	江坂支店	日生中央出張所
新横浜支店	大曽根支店	新城支店	上本町支店	江坂駅前支店	阪急宝塚出張所
逗子出張所	大津町支店	瀬戸支店	上町支店	大美野支店	阪神甲子園出張所
たまプラーザ支店	小田井支店	祖父江支店	上六支店	大和田支店	東神戸支店
茅ヶ崎支店	尾頭橋支店	高浜支店	歌島橋支店	交野支店	姫路支店
網島支店	覚王山支店	田口特別出張所	梅田支店	門真支店	姫路中央支店
鶴見支店	笠寺支店	武豊支店	梅田新道支店	河内長野支店	兵庫支店
鶴見駅前支店	金山支店	田原支店	梅田中央支店	関西空港出張所	武庫之荘出張所
戸塚支店	上飯田支店	知多支店	大阪駅前支店	岸和田支店	奈良県
戸塚駅前支店	上前津支店	知立支店	大阪恵美須支店	くずは支店	学園北口支店
中山支店	黒川支店	津島支店	大阪コールセンター	鴻池新田支店	檀原支店
登戸支店	栄出張所	東海支店	大阪京橋支店	光明池支店	近鉄学園前支店
橋本支店	栄町支店	常滑支店	大阪市南港市場出張所	香里支店	富雄出張所
東戸塚支店	笹島支店	豊明支店	大阪西支店	小阪支店	奈良支店
日吉駅前支店	笹田支店	豊川支店	大阪ポートタウン支店	堺支店	大和王寺支店
日吉出張所	浄心支店	豊田支店	上新庄支店	堺駅前支店	大和郡山支店
平塚支店	汁谷出張所	豊田市役所出張所	瓦町支店	堺東支店	大和高田支店
平塚駅前支店	新名古屋駅前支店	豊田南支店	北島支店	吹田支店	和歌山県
藤沢支店	高畑支店	豊橋支店	九条支店	摂津支店	田辺支店
二俣川支店	滝子支店	豊橋市役所出張所	京阪京橋支店	千里中央支店	和歌山支店
本厚木支店	中部職域営業部	豊橋南出張所	四貫島支店	千里中央駅前支店	岡山県
南藤沢支店	鶴舞支店	西尾支店	信濃橋支店	千里山田出張所	岡山支店
宮崎台支店	土古支店	西春支店	十三支店	大東支店	岡山駅前支店
武蔵小杉支店	中村支店	日進支店	城東支店	高槻支店	広島県
武蔵小杉駅前支店	中村公園前支店	半田支店	新大阪支店	高槻駅前支店	広島支店
武蔵新城支店	名古屋駅前支店	東刈谷出張所	新大阪駅前支店	豊中支店	広島中央支店
武蔵新城駅前支店	名古屋港支店	尾西支店	新大阪北支店	豊中駅前支店	福山支店
元住吉支店	名古屋市役所出張所	枇杷島支店	心齋橋支店	豊中庄内支店	山口県
大和支店	鳴子出張所	碧南支店	船場支店	豊中第一出張所	宇部支店
横須賀支店	鳴海支店	三好支店	船場中央支店	富田林支店	徳山支店
横浜支店	鳴海東出張所	三好ヶ丘出張所	大正橋支店	中もず支店	徳島県
横浜駅前支店	野並支店	弥富支店	谷町支店	寝屋川支店	徳島支店
横浜中央支店	東支店	三重県	玉造支店	羽衣支店	香川県
横浜中山支店	平針支店	伊勢支店	玉出支店	花園支店	高松支店
横浜西口支店	藤ヶ丘支店	大山田出張所	築港支店	東大阪支店	高松中央支店
横浜白楽支店	星ヶ丘支店	桑名支店	中央市場支店	東大阪中央支店	福岡県
横浜藤が丘支店	堀田支店	津支店	塚本支店	枚岡支店	北九州支店
新潟県	本山出張所	松阪支店	鶴橋支店	枚方支店	久留米支店
新潟支店	守山支店	四日市支店	寺田町支店	藤井寺支店	福岡支店
石川県	八事支店	四日市中央支店	天神橋支店	松原支店	福岡中央支店
金沢支店	柳橋支店	滋賀県	天満支店	箕面支店	長崎県
金沢中央支店	リテール拠点部(名古屋)	草津支店	天六支店	守口支店	長崎支店
岐阜県	六番町支店	京都府	堂島支店	八戸ノ里支店	熊本県
大垣支店	名古屋市外	宇治大久保出張所	中之島支店	八尾支店	熊本支店
岐阜支店	渥美出張所	京都支店	難波支店	八尾駅前支店	
多治見支店	安城支店	京都駅前支店	難波駅前支店	兵庫県	
中津川支店	一宮支店	京都市役所出張所	西心齋橋支店	明石支店	
静岡県	一宮東出張所	京都中央支店	西日本職域営業部	芦屋支店	
磐田支店	稲沢支店	西院支店	日本一支店	芦屋北支店	
静岡支店	犬山支店	聖護院支店	野田支店	尼崎支店	
静岡中央支店	岩倉支店	出町支店	萩ノ茶屋支店	尼崎駅前支店	
清水支店	大府支店	東寺支店	放出支店	伊丹支店	
沼津支店	岡崎支店	西陣支店	針中野支店	岡本出張所	
浜松支店	岡崎駅前支店	西七条支店	阪急梅田北支店	杭瀬支店	
三島支店	尾張旭支店	東向日町特別出張所	平野南口支店	甲子園支店	

(2010年7月1日現在)

[www.jibunbank.co.jp](http://www.jibunbank.co.jp)

